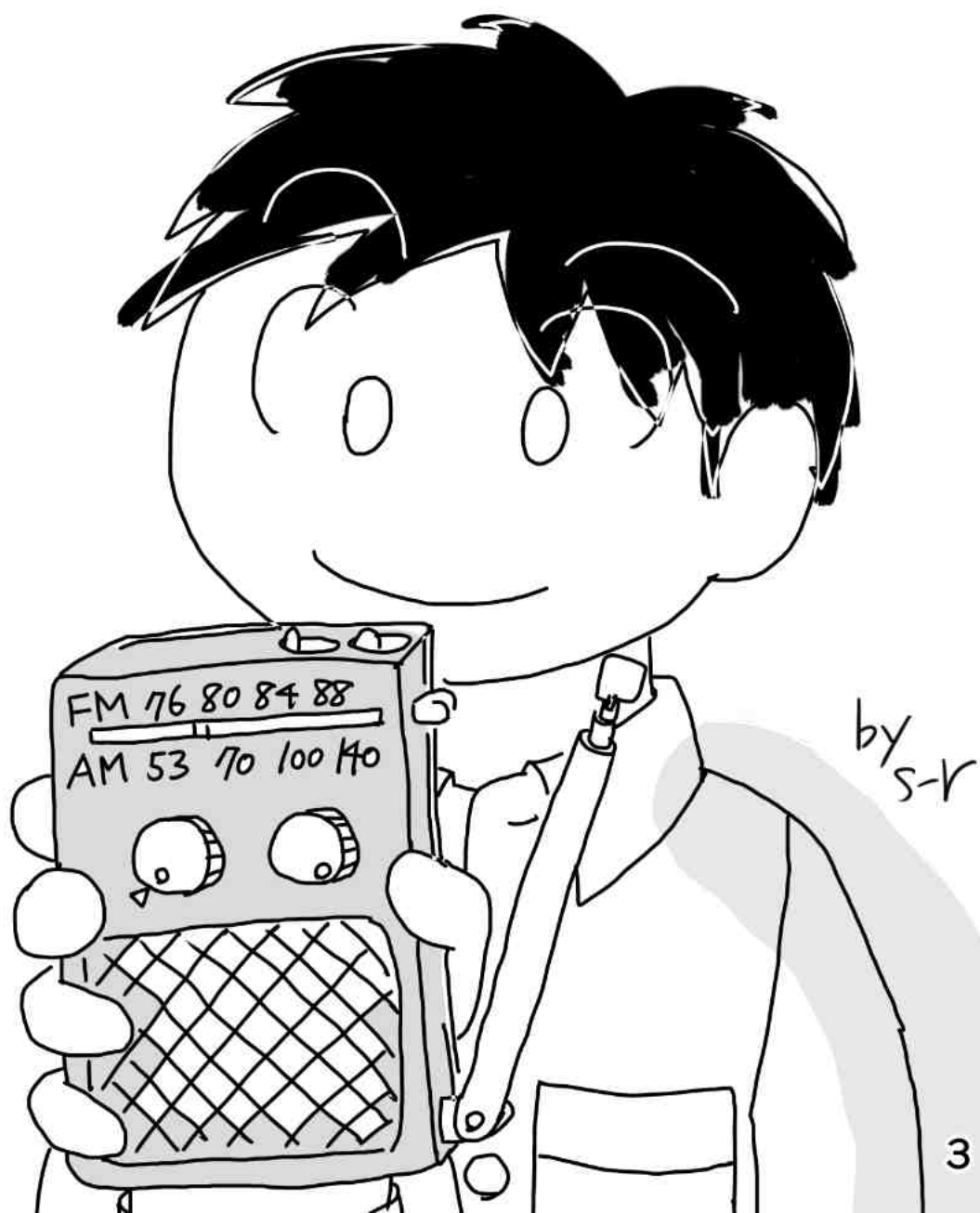


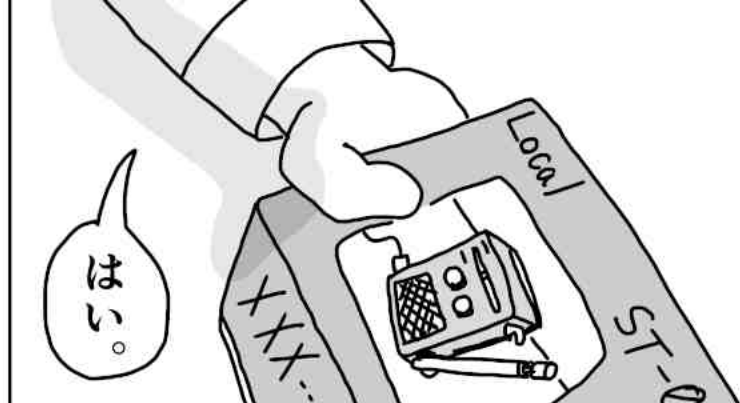
トランジスタ・ラジオ

トランジスタ・ラジオ



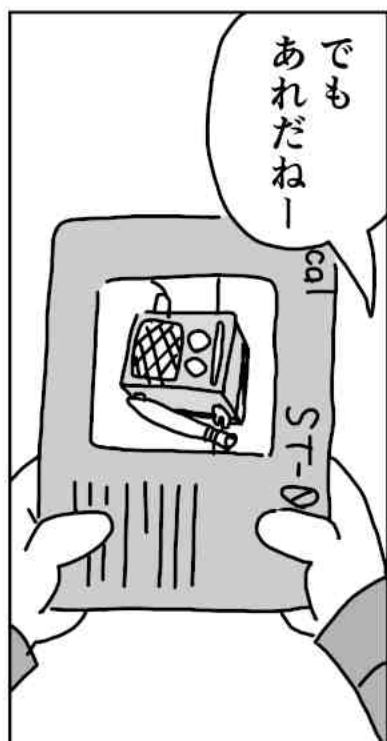
今よりも
ちよっと昔の
話なんだけど

はい。



誕生日プレゼント。
ラジオね。

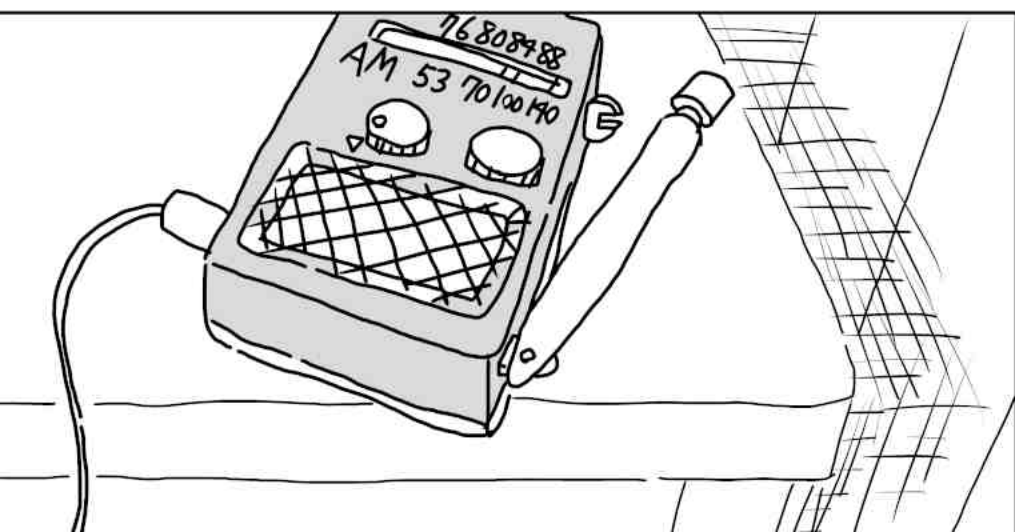
欲しいって
言ってたでしょ、晴人



でも
あれだねー



あ、うん。
ありがとう



そういう風にして
小5の誕生日に
小型の
トランジスタ
ラジオをもらった。



あまりのめり込まない
ように、一日に聴く
時間を決めて、
ほどほどに
聴いていた。



当時は割と素直
だったんだと思う。
今ひねくれている訳
ではないんだけど…

ラジオ番組と
いうのは、今も昔も
そんなに
変わらないと
思う。



ただそういう
番組を
ちゃんと聴くのは
その頃が
初めてだった。

よく耳にする
ヒット曲や
あまり聞いた事
のないめずらしい曲

DJの
トークも
非常に
新鮮
だった。

しかも夜がふけた
頃の放送には
Hなコーナーも
よくあった…



結局
のめり込んで
いたのか
そういう生活が
続くと…

ちょっと
いいかげんに
しなさいよ！
いつまで
布団に
入ってるの！

…と
いう事や…

うーん



学校でも…



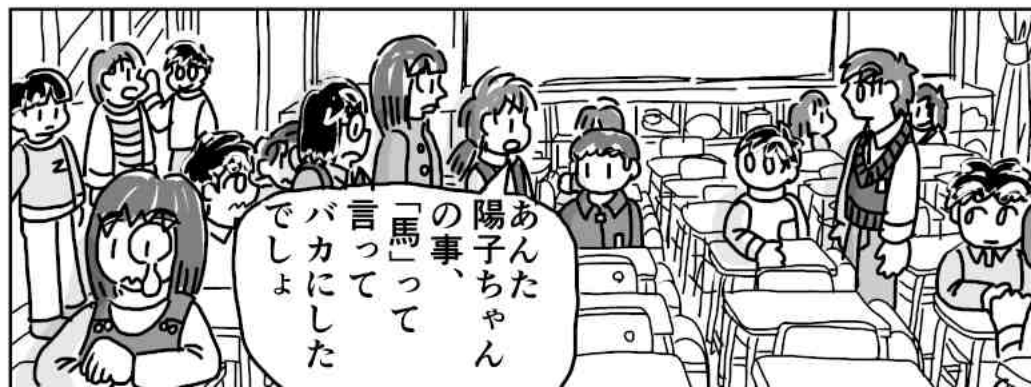
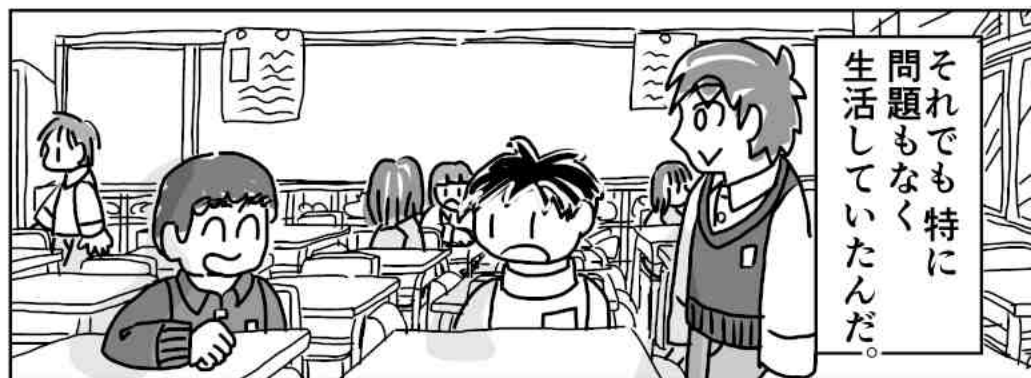
C田

はい？



フ
ワ
ー



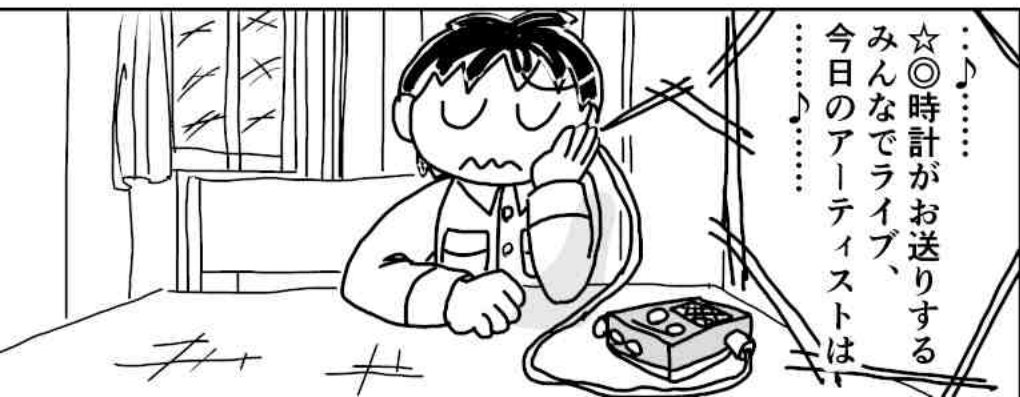














あのー
もしかして俺に
話しかけてる？

そうだよ。
君に話しかけて
るんだよ。晴人

どうして？
これラジオじゃ
ないの？
トランシーバーか
何か？

いや、
これはラジオ。
トランジスタ・ラジオの
私が君に
話しかけているんだ。

うーん

意味が
わからない……

どうして？
意識を持って
しゃべる事の出来る
ラジオが手元に
あるって事だよ。

ますます
意味不明だよ
……

そんな事ないって。
まだ子供だから
そう思うんじゃないか？
世界は大きいし、
不思議な事は
いっぱいあるよ。

それも子供を
だましてる感じ。
同じ事が大人に
起こったらもっと
大騒ぎになると
思う。

それはそうかも。
私も晴人だから
思い切って
話しかけて
みたんだ。

そうなの。
要するに君は
このラジオで、
俺に話しかけて
いるんだね。

そういう事だね。

そういう事が
あって……
と言っても、そんな事
誰も信じないか、

あるいは、
誰かに
だまされてるんだと
思うだろうけど……

まだ小学生
だったから
あっさりと
受け入れてみた。

中也と謙二の
事をラジオに
相談して
みたんだ。



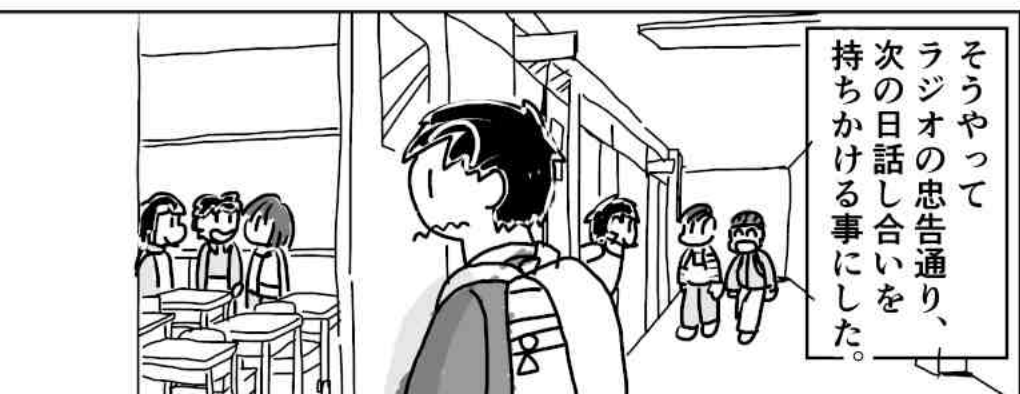
聞いてはみたよ。
野球している時に
挑発し合ったみたい
だけど……



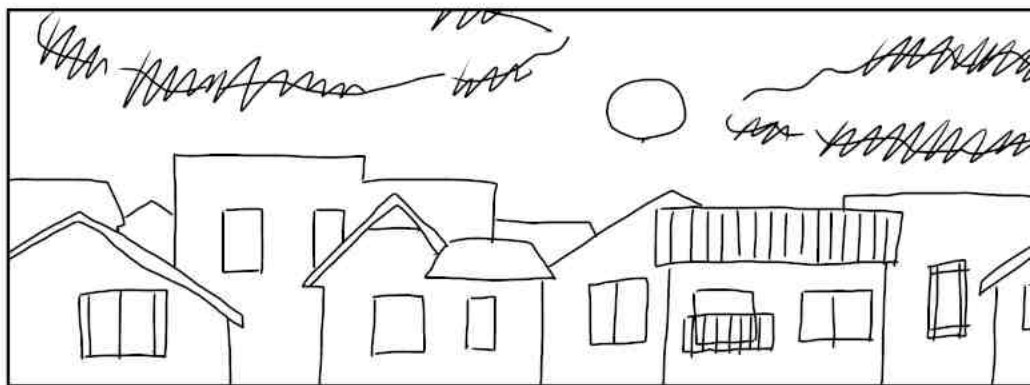
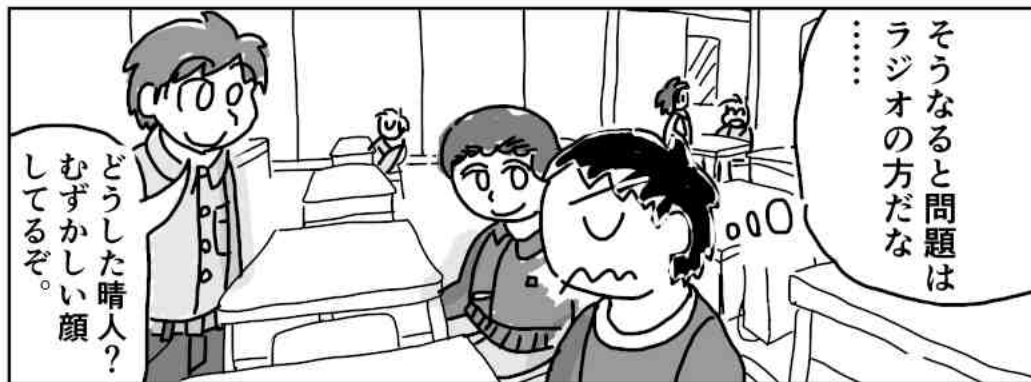
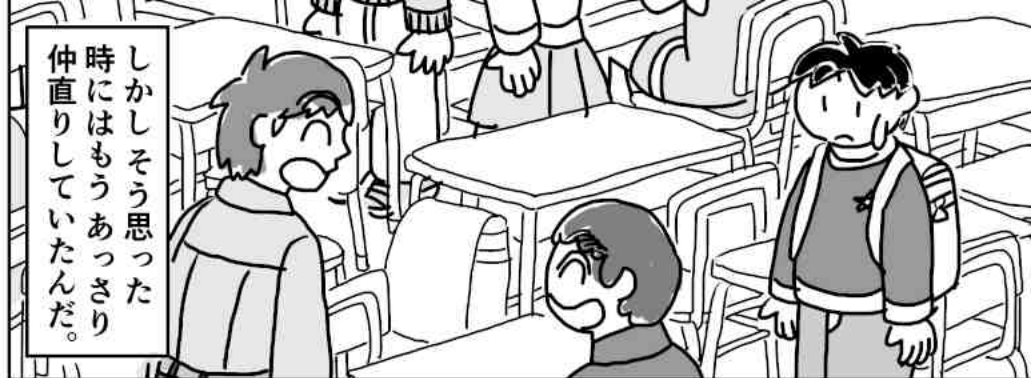
まあ子供のケンカだし、
そんな大事には
ならないだろうな。
大人の悪意が
込められた
ケンカとは違うし……



どうしても
何とかしたいなら、
やっぱり話し合いが
一番だね……



そうやって
ラジオの忠告通り、
次の日話し合いを
持ちかける事にした。

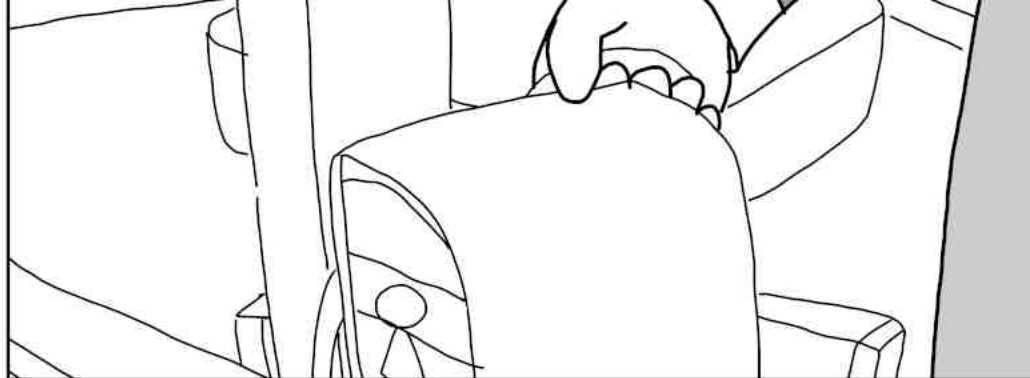




おかえりなさい。

おかえりー

ただいま。





うん。
また話が
出来ちゃうんだね

そうだね。
私は話す事が
出来る
ラジオだから



昼間は何してるの？
ラジオ
聴いてるの？

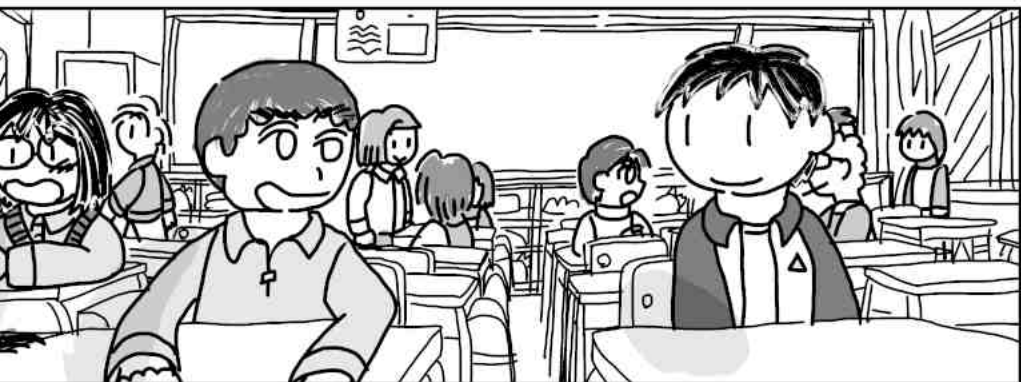
うーん、
暇を持て余している
訳ではないんだけど…



まあ私自身の
事については、
いづれ少しずつ
話すよ。

うん。
じゃあまた
今度聞く。





そうだね。
夜ふかしも
するし……

やっぱり
言わない方が
いいのかな……

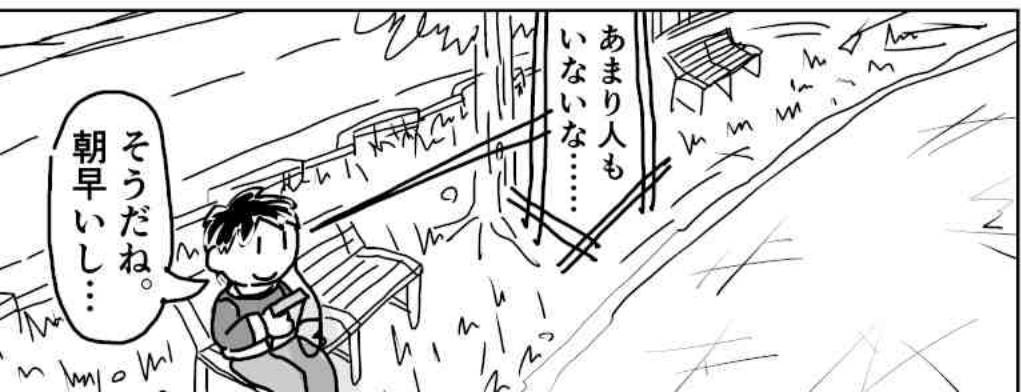
そうそう。
面白いものは
すぐに中毒に
なっちゃうよな。

ある日



ラジオが朝の風を
あびたいと言うので、
早朝にラジオを持って
公園に行った



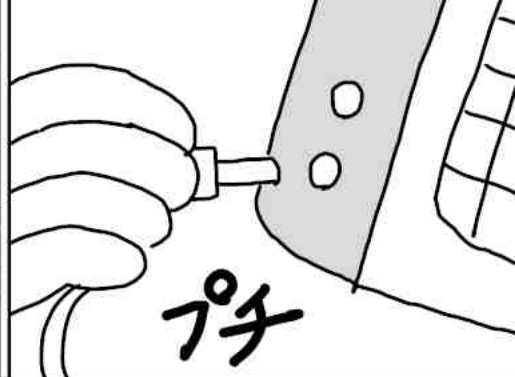
















じゃあよろしくね、
ラジオさん。
私はC田君と
同じクラスの
Z橋恵梨っていうの

うん。
よろしく



でも困ったな！。
こんな事、他の人に
言えないよ。



何か秘密の共有者に
なっちゃったね。
私、C田君に
惚れてる
訳でも
何でも
ないのに

うん……

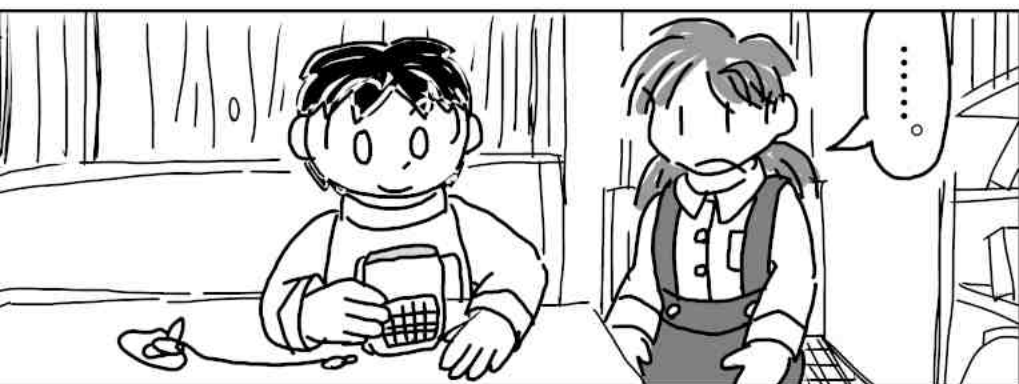
そして
その後の
ある日の夜…







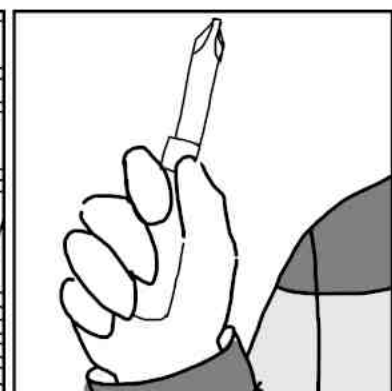














晴人がそれをする事も
あるんじゃないかとも
思っていたんだが…



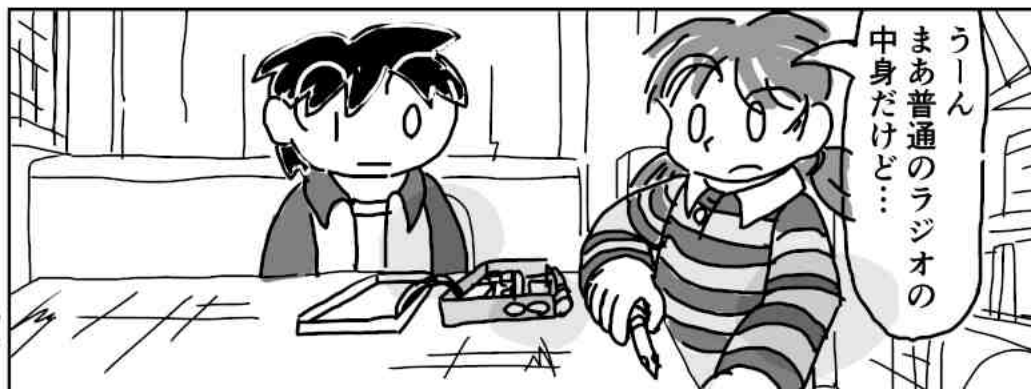
そうなんだ。
それで私の筐体を
開けてみてくれないか



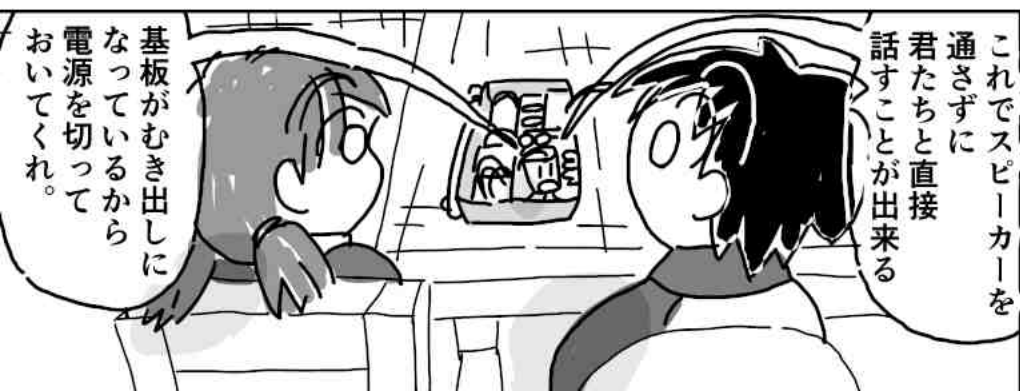
うん、考えたことは
あるんだけど、
実際にはしてみる気にならなくて…

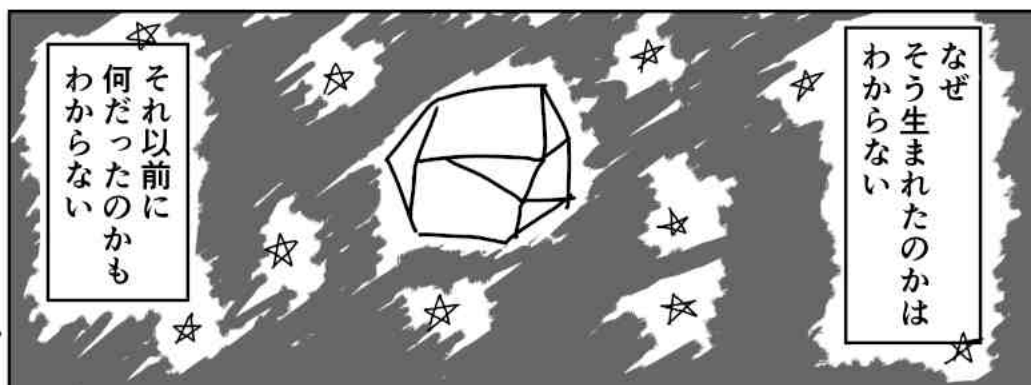


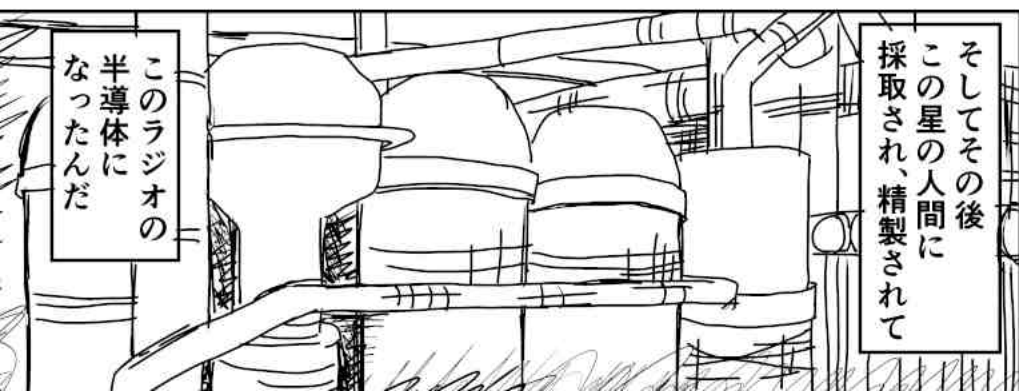
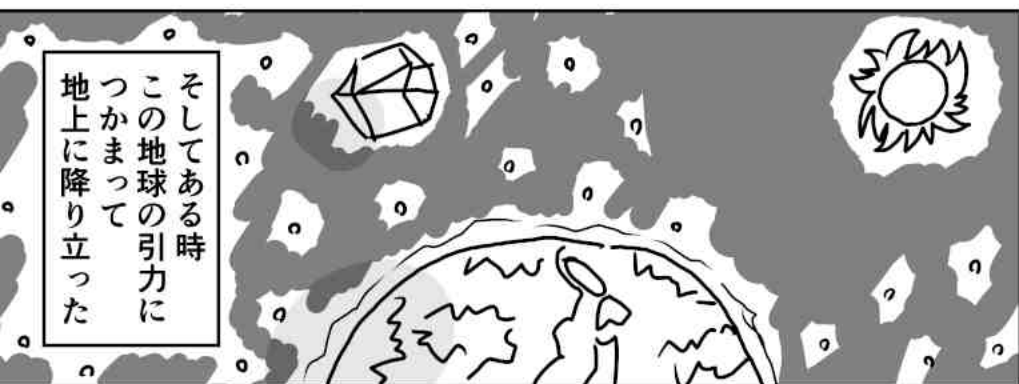
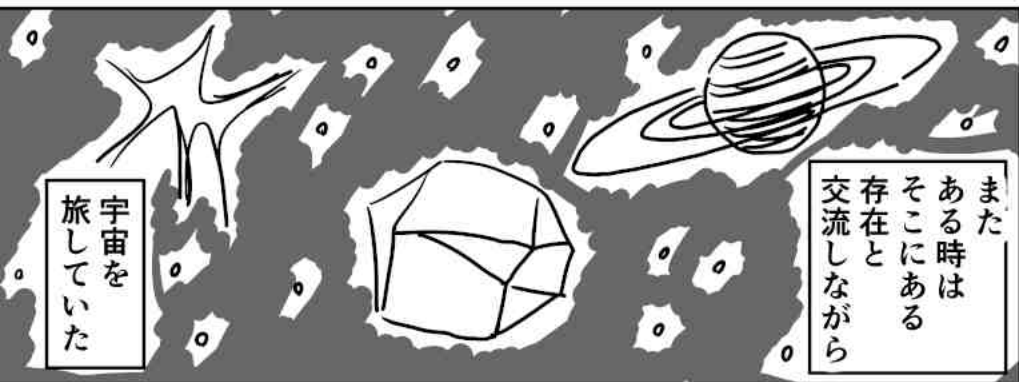
じゃあ
開けてみるよ



うーん
まあ普通のラジオの
中身だけど…







私の存在の
本質的な部分は
ケイ素に依存している
らしい

ケイ素……
トランジスタの
原料だね

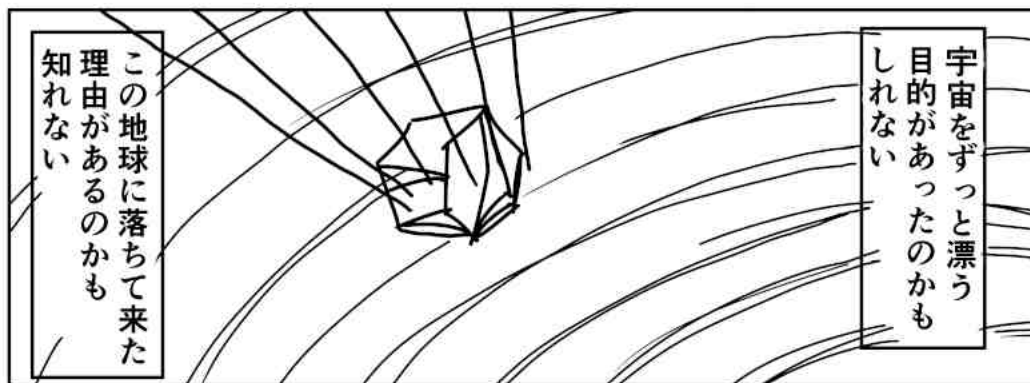


ラジオになって
以来ずっと
考えて
いたんだが、
やはり自分が
何者かを
知りたいんだ



宇宙をずっと漂う
目的があったのかも
しれない

この地球に落ちて来た
理由があるのかも
知れない



だから
このラジオから
離れて
自由に行動して
みたいんだ





そして……



成程ね
つまり、この
ラジオから
取り外して
欲しいって事ね。



うん、
そういう事なんだ。
私の願いを
理解してくれて
ありがとう



代わりに持ってきた
この型番の
トランジスタを
取り付けてラジオも
元通りに使えるって
事だね



線を切っちゃって
いいんだよね、
ラジオさん

ああ
頼む

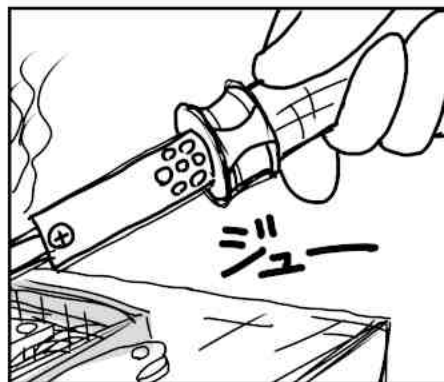


それなら
やるよ



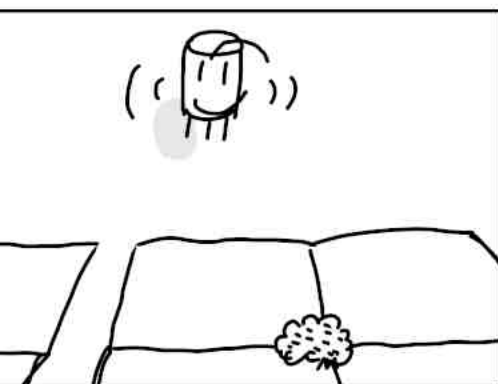
C田君も
それでいいんだね？

うん……



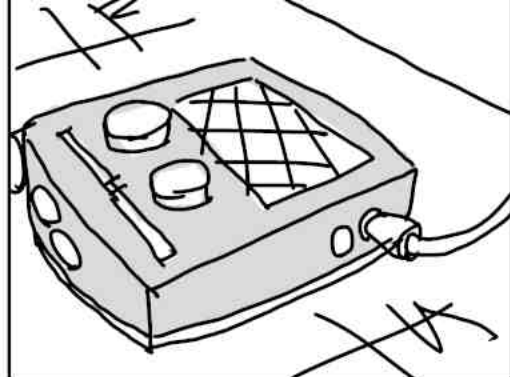








こうして
ラジオは
旅立っていった

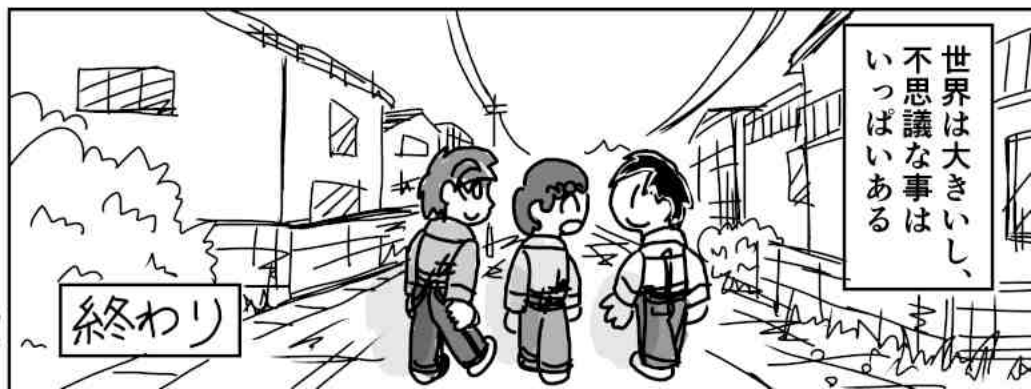


僕の持っている
ラジオは
極普通の
トランジスタ・
ラジオになった

最初に話した時
ラジオが言った
通りなんだろうな



世界は大きいし、
不思議な事は
いっぱいある



終わり

<https://s-rmanga.o0o0.jp/>



This book by © s-r 2022 is licensed under the Creative Commons Attribution-NonCommercial-NoDerivatives 4.0 International License. To view a copy of this license, visit <http://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/4.0/>.